

キューピットバレイ新第2リフト建設事業

審査講評

令和5年7月

上越市

(キューピットバレイ新第2リフト建設事業事業者選定委員会)

目次

1	事業者選定の方法.....	1
2	選定委員会の構成.....	1
3	選定委員会の開催経過.....	1
4	審査の方法.....	1
5	審査の結果.....	2
6	総評.....	5

1 事業者選定の方法

本事業における事業者の選定については、入札価格及び設計・施工等の提案内容を総合的に評価する、総合評価一般競争入札方式（地方自治法施行令第167条の10の2）により実施した。

2 選定委員会の構成

選定委員会の構成は、次のとおりである。

担当	氏名	所属
委員長	飯塚 徹	松本大学松商短期大学部経営情報学科 教授
副委員長	後藤 幸泰	北陸信越山岳観光索道協会新潟地区部会 副部会長
委員	八木 達也	株式会社スマイルリゾート 執行役員
委員	阿部 俊和	上越市 文化観光部長
委員	前角 隆夫	上越市 都市整備部建築住宅課営繕室長

3 選定委員会の開催経過

選定委員会の開催経過は、次のとおりである。

日程	委員会	主な議題
令和5年4月7日	第1回選定委員会	・事業者選定スケジュールについて ・事業者募集内容（入札説明書等）について ・事業者選定基準について
令和5年7月13日	第2回選定委員会	・事業者ヒアリング（プレゼンテーション、質疑応答） ・提案審査 ・総合評価 ・審査講評

4 審査の方法

事業者の選定は、次のとおり実施する。

- ① 資格確認 参加表明書にて、入札説明書で示した入札参加資格の有無を確認
 - ② 基礎確認 要求水準書に示す内容を満足しているかなどの基礎的な確認
 - ③ 総合評価 提案内容及び入札金額を総合的に評価し審査を行い、評価得点化
 - ア 審査提案 落札者決定基準に基づき、提案内容の審査を行う
 - イ 価格による評価 落札者決定基準に基づき、入札金額を点数化し評価点を算出する
- ※ ①、②については市が実施し、③を選定委員会において実施する
- ※ ③の結果を踏まえ、市が、落札事業者の決定を行う

5 審査の結果

(1) 資格確認

次の3社から参加表明書及び入札参加資格申請書等の書類の提出があり、入札説明書に記載の参加資格要件の具備について審査した。審査の結果、いずれの企業も入札参加資格を有していることを確認した。

各社には、受付順に「S」、「K」、「I」の整理番号を付与した。

入札参加資格を確認した入札参加者

No.	整理番号	入札参加者
(1)	S (エス)	日本ケーブル株式会社 新潟サービスセンター
(2)	K (ケー)	JFEプラントエンジニア株式会社
(3)	I (アイ)	安全索道株式会社

(2) 基礎確認

ア 提出書類の不備の確認

入札参加資格を有する3社から市へ入札関係書類の提出があり、いずれも必要な書類がすべてそろっていることを確認した。

イ 基礎確認

市は、3社の提案内容が基礎的事項を満たしていることを確認した。なお、基礎的事項の確認項目は、落札者決定基準のとおりである。

(3) 提案審査

選定委員会は、落札者決定基準に基づき、提案内容の審査を行った。

なお、公正な提案審査を実施するため、提案内容の評価点が確定するまで、企業名を伏して整理番号で審査を行った。

提案審査は、次の5段階の基準により評価を行った。

評価	評価内容	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度である	配点×0.80
C	優れている	配点×0.60
D	CとEの中間程度である	配点×0.40
E	要求水準を満たしている程度	配点×0.20

提案内容の評価の結果は、次のとおりである。

審査項目	評価の視点	配点	I社	K社	S社	
整備方針との整合	・市の整備方針との整合	10	5.20	4.00	8.40	
実施体制 リスク管理方針	・確実な事業実施に向けた体制の構築 ・リスク管理方針	5	2.60	2.40	3.40	
地域経済への配慮	・地元企業の活用	5	2.60	2.40	3.40	
設計に関する事項	・全体配置、動線、施設整備計画、建築意匠	15	50	6.60	4.80	10.80
	・輸送能力の充実	10		4.80	4.80	6.00
	・ユニバーサルデザイン	5		2.20	2.20	2.40
	・気候・周辺環境への配慮	5		2.40	2.00	2.60
	・維持管理への配慮	10		4.80	2.80	8.00
	・運営効率性への配慮	5		2.80	1.80	3.40
建設に関する事項	・安全の確保 ・周辺への配慮 ・確実な工程、工期短縮	5	10	1.80	1.60	3.80
	・品質の確保 ・新しい技術や施工上の工夫	5		2.80	2.00	3.00
提案内容の評価点		80	38.60	30.80	55.20	

(4) 価格による評価

ア 入札価格の確認

開札（令和5年7月12日）により、市は、3社から提出された入札書に記載の入札価格が、全て入札書比較価格の範囲内であることを確認した。

イ 価格評価点の算定

市は、落札者決定基準に基づき、入札金額を次の方法で点数化し、価格評価点を算出した。価格評価点の計算は、小数点以下第3位を四捨五入して行った。

価格評価点
$= 20 \times (\text{入札参加者中の最低の入札金額} \div \text{各入札参加者の入札金額})$

価格評価点の算定結果は次のとおりである。

	I社	K社	S社
入札価格（税抜）	1,394,000,000円	1,350,000,000円	1,390,000,000円
価格評価点	19.37点	20.00点	19.42点

(5) 総合評価点の算出及び最終審査結果の確認

選定委員会は、提案内容の評価点と価格評価点を合計して総合評価点を算出した。

	I社	K社	S社
	安全索道株式会社	JFEプラントエンジニアリング株式会社	日本ケーブル株式会社新潟サービスセンター
提案内容の評価点	38.60点	30.80	55.20
価格評価点	19.37点	20.00	19.42
総合評価点	57.97点	50.80	74.62

選定委員会は、上記を最終の審査結果とした。

6 総評

提案書は、いずれも本事業の事業目的を理解し、市が示した要求水準を上回るとともに、各社の実績により培われた技術・知見に加え、様々な創意工夫が盛り込まれたものであり、各社の熱意と本事業に対する真摯な取組が伝わるものであった。

選定委員会では、落札者決定基準に基づき、厳正かつ公正に審査及び評価を行った結果、S社（日本ケーブル株式会社新潟サービスセンター）が最高評価点を得た。

S社の提案の最大の特徴は、新リフトの建設ルートにおいて保安林解除申請の有無による2種のプランを設定し、それぞれのメリット、デメリットを分析したうえで、工事の完成時期を確実に見込める「保安林解除申請を伴わないプラン」を選択したものであった。

このプランの選択により生じるデメリットは、特に山麓駅舎建設に伴う造成工事が増加することや周辺コースからの乗入・乗車ルートが制限を受けることであり、その軽減策の提案にあたっては、利用者の利便性はもとより、運営スタッフの除雪作業負担の軽減も視野に入れ、自然落下式の駅舎屋根やリフトの回転コースをこれまでとは逆の時計回りとすることで、ロープと地上との距離を確保するなどの工夫を取り入れた。

さらに、支柱の本数の少なさや早めのリフトスピードの設定（毎秒5m）による搬器数の削減は、建設コストだけでなく、今後の維持管理コストの軽減にもつながっている。

このように、日本有数の多雪地域に立地するキューピットバレイスキー場の現状とこれまでの運営上の課題等を熟知し、きめ細かな配慮を施した全体的な設計思想が高い評価を得たものである。

また、地域経済への配慮では、工事関係の地元企業活用に加え、工事関係者の地元宿泊施設利用を打ち出し、工事の実施体制では各部門に具体的な人員配置数を明示している。

これらの特筆すべき点を含め、総合的に市の整備方針に掲げるすべての項目について、その実現性を高めることができる内容と評価された。

<各評価項目の講評>

評価項目		審査講評		
大項目	小項目	I社	K社	S社
整備方針との整合	・市の整備方針との整合	<ul style="list-style-type: none"> 山麓乗り場が駅舎内である、搬器に転落防止部品等、人にやさしい提案があった。 テント膜使用等の先進的な提案があったが、豪雪地での適応に関しては不透明な部分があった。 	<ul style="list-style-type: none"> チェアスキーの救助方法等が配慮された提案であった。 特別豪雪地帯に立地するスキー場として、除雪の労力負担に関する認識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場の現状とこれまでの営業上の課題等をよく理解した上での提案であった。 部品の共通化、国産材料・機器の選定による供給体制など、長期的に安定したメンテナンスに配慮されている。
実施体制 リスク管理方針	<ul style="list-style-type: none"> 確実な事業実施に向けた体制の構築 リスク管理方針 	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001による品質管理体制により安全性を確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> リフトの建築は、北海道で実績を積んだ直営班が行うこととしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門に具体的な人員配置数を明示した工事の実施体制は、より信頼性を高めるものである。

評価項目		審査講評		
大項目	小項目	I 社	K 社	S 社
地域経済への配慮	・地元企業の活用	・市内企業を建築工事及び供用後のメンテナンスに活用予定としている。	・市内企業を建築工事等で活用予定としている。	・市内企業を建築工事等で活用予定としている。 ・工事中の県外業者の滞在を安塚区内の宿泊施設利用とするなど細かい配慮がされている。
設計に関する事項	・全体配置、動線、施設整備計画、建築意匠	・保安林解除申請に関する捉え方、豪雪地帯対策については不確実性が残る。	・保安林解除申請に関する捉え方、豪雪地帯対策については不確実性が残る。	・積雪対策も含めた設計性が高く、管理・運営がしやすい提案となっている。
	・輸送能力の充実	・輸送能力を確保している。(1,600人/時) ・スピードを5.0m/秒と設定し、搬器数を抑えている。(77台)	・輸送能力を確保している。(1,800人/時) ・安全性のためスピードを4.0m/秒に抑え、その分搬器の数を多くしている。(100台)	・輸送能力を確保している。(1,600人/時) ・スピードを5.0m/秒と設定し、搬器数を抑えている。(66台)
	・ユニバーサルデザイン	・全社とも、サイン計画を2か国語表記とするなど、ユニバーサルデザインに配慮された提案であった。		
	・気候、周辺環境への配慮	・テント膜を使ったデザインは斬新であったが、豪雪地での適応に関しては不透明な部分があった。	・特別豪雪地帯に立地するスキー場として、除雪の労力負担に関する認識が不足している。	・冬期のスキー場の現状を理解した上で、運営スタッフの除雪作業の負担軽減等も視野に入れた提案であった。
	・維持管理への配慮	・リフトとゲレンデの交差部分が多く、運営上の配慮が必要。 ・支柱の数は22本としている。	・除雪労力など、見えないコストに不安を感じる。 ・支柱の数は23本としている。	・信頼性の高い機械で汎用性も高く、維持管理に配慮されている。 ・支柱の数は17本としている。
・運営効率性への配慮	・テント膜により、明るい機械室で効率性・安全作業に配慮されている。	・搬器格納庫がセミオート方式であり、運営効率性に配慮されている。	・格納庫内に搬器の整備スペースがあり、作業員の作業に配慮されているなど、全体として現在のスキー場の状況をよく理解した上での提案であった。	

評価項目		審査講評		
大項目	小項目	I 社	K 社	S 社
建設に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保 ・周辺への配慮 ・確実な工程、工期短縮 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性の高い提案であった。 ・保安林解除申請の期間と工期設定には、不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工期設定では、工程に猶予期間を設けて設定されていたが、保安林解除申請の期間と工期設定には、不確実性が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保安林解除申請の有無による2種のプランを比較し、工事の完成時期を確実に見込める「保安林解除申請を伴わないプラン」を選択した提案であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・品質の確保 ・新しい技術や施工上の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・産学連携で開発したオリジナルのテント膜の提案は斬新であった。 ・夏山利用の提案があった。 ・ISO9001による品質が確保されている提案であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・搬器格納庫がセミオート方式であり、運営効率性に配慮された提案であった。 ・特殊な技術が多く、汎用性に不安要素がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・制御装置だけではなく、保安通信回路にも避雷対策をする提案であった。 ・ヘリコプター運搬によるコンクリートの品質確保が計画されていた。